

メンテナンスに関する研究の推進



メンテナンス研究推進本部 建設マネジメント研究官 喜安 和秀 下水道機能復旧研究官 内田 勉
河川構造物管理研究官 佐々木 隆 道路構造物管理システム研究官 福島 眞司

(キーワード) 社会資本, 維持管理, 持続性, マネジメント

1. はじめに

社会資本の老朽化が進むなか、各社会資本分野で予防保全の考え方に立った長寿命化計画が策定され、点検・診断・対策・データベース等、維持管理を適切に実行するための各種手段の検討が精力的になされている。また、こうした取組みが進むと、維持管理のPDCAサイクルの持続性確保といった各分野に共通した課題も重要度を増すと考えられる。

このような認識のもと、国総研では各分野の維持管理に関わる技術開発を推進するとともに、維持管理に関する研究の方向性、優先度の高い課題の設定等のマネジメント、およびメンテナンス全般に共通する課題解決に向けた取組みを行っている。

今年度は、メンテナンス研究推進本部の活動として、これまでの研究状況を踏まえ、維持管理の技術体系の全体像マップやデータベースに関する情報を再整理し、あるべき方向性や技術フレームに沿った取組状況の集約、及び今後取り組むべき課題等について共有を図るとともに、2015年度まで実施したプロジェクト研究「リスクマネジメントの観点を組み込んだ維持管理の持続性向上手法に関する研究」のフォローアップとして、自己点検チェックシートの試行・改善を行った。

2. 自己点検チェックシートの試行・改善

プロジェクト研究では、道路橋梁、河川構造物、地下管路の管理者、地方公共団体、鉄道、プラント等民間事業者および海外のインフラ管理者を対象にヒアリング等を実施し、各分野に共通する維持管理マネジメント上の問題点を抽出し、その結果を基に、維持管理の持続性を高めるため維持管理のあるべき姿とのギャップを把握する自己点検チェックシート

を2015年度までに作成済みである。

2016年度は、この作成済みの自己点検チェックシートを活用しやすくするために、維持管理に携わる各組織・責任者が、それぞれのレベルにおける維持管理実施上の阻害要因を特定し、実行すべきアクションが明確になるよう、メンテナンスのフレームワークを見直し、それに沿って各レベルでの評価項目を再整理し、これに合わせ自己点検チェックシートを修正した(図-1)。

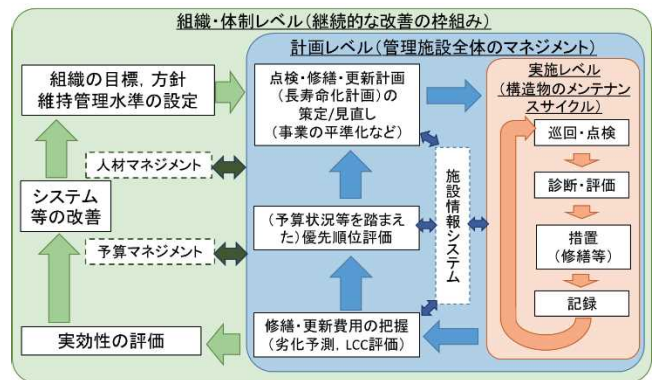


図-1 維持管理マネジメントのフレームワーク

3. 今後の展開

今後は、自己点検チェックシートや同じくプロジェクト研究で作成した改善事例集の現場での試行を図り、評価項目のさらなる具体化や精度の向上、特に地方公共団体への適用性の向上につながるフォローアップを行う。

また、こうした取組も含め、引き続き、社会資本の維持管理に関する研究の方向性の追究、情報共有を図り、国総研における維持管理に関する研究開発、技術の指導の成果、進捗状況等について対外的発信に努めていく。